



たちかわし環境ブック 2010

～特集：わたしたちの暮らしを支える下水道～



表紙の写真紹介

表紙の写真は、左側が小平監視所下流の玉川上水、右側がモノレール近くの根川緑道の様子です。

これらの写真は、平成 21・22 年度に開催された「たちかわエコパートナー講座」で訪れた場所です。玉川上水には昭島市の下水処理場で高度処理された水、根川緑道には立川市の下水処理場で高度処理された水が流れており、受講生から驚きの声があがりました。

身近な自然の中にも人が様々に関わっている一例です。

はじめに

立川市では「できることを着実に」をコンセプトに、第3次環境行動計画を公募市民、事業者及び市民団体に構成された策定委員会で、環境基本計画の重点目標を進めるため、具体的な環境行動を議論し、策定しました。今後はその環境行動を推進し、指標により進行管理してまいります。

2010年の市の取組みは、家庭向けの温暖化対策として太陽光発電機器や、太陽熱温水器、高効率給湯器などの設置に対し、補助を行い、低炭素社会の実現を推進しています。

また、業務部門の省エネルギーを推進していくために、市内事業者の99%を占める中小企業事業者を対象に省エネルギー対策に関する普及啓発を推進していく必要があります。

市の事業者向けの温暖化対策は、商工会議所と連携し市内中小企業に対する省エネ対策の普及啓発のためのセミナーや省エネ診断、省エネ改修に対する助成を行いました。引き続き、温室効果ガスの削減に向け地球レベルでの温暖化対策を地域から進め、環境にやさしい住みよいまちづくりを進めます。

今回の特集は、「下水道について」です。日々みなさんが流している下水はどのように下水道管を通り、下水処理場で処理され、川に戻るのか、をお伝えしています。

第1部では、環境行動計画などに目標として掲げられた数値をみることで、立川市の環境の「今」と過去からの変化を感じてください。

第2部では、毎年、身近で立川市の環境保全に一生懸命取り組んでいる市民や事業所の方々の活躍を掲載しています。

第3部では、平成18年度に策定した「省エネルギービジョン」について、中間報告を行っています。

市では、環境問題を考える際に、まず足元にある身近な環境に目を向け、環境の大切さを感じていただくことが重要なのではないかという観点から、2006年より環境ブックを作成しています。このブックをご覧になってあなたにできるヒントを探してください。そしてあなたの活動を教えてください。ご意見をお待ちしています。

終わりに、発刊にあたり、ご尽力をいただいた環境審議会委員の方々や数多くの活動報告をお寄せいただいた市民・事業者の皆様に心よりお礼申し上げます。

立川市

環境ブック 2010 の発刊に寄せて

「ゴミってなんだろう」(2007年版)、「土の恵み」(2008年版)、「あなたが出したゴミの現状」(2009年版)などの特集編集を経て、2010年版は第1部で環境の質を表わす具体的な数値、第2部では市民と事業者の自発的な環境行動、第3部で省エネルギーへの試みを紹介しています。

過去2回の環境ブックで力点をおいたゴミの特集は、市民の協力を得て、着実に減量の成果を挙げつつあります。

一人当たり燃やせるごみの排出量は、平成15年の806グラムから平成22年は633グラムへと減りました。分別の良し悪しを反映する廃棄物の資源化率も徐々に高くなり、焼却灰のエコセメント化を含めた平成22年度のリサイクル率は35%に達しました。平成25年に53.8%への目標が見えてきました。市民の環境意識の高まりを受けた行政の協力要請の努力は、着実に実を結びつつあります。

他方、省エネルギー行動は、学校教育の現場では目立った成果を挙げていますが、事業所や商店などへの広がりには未だしの観があります。

環境ブック第3部では、日々の暮らしで最もエネルギーを消費する自動車を対象に、市中心部の少し外側で、クルマから自転車に乗り換えるパークアンドライド・サイクルアンドライドやカーシェアリング制度の導入がJRや多摩モノレールと協働して実験的に取り組まれていることが紹介されていて大いに注目されます。

大気、水、緑、騒音など法が規制する典型的な環境の質が、立川市域でどの程度保たれているのか、第1部「数字で見るたちかわの環境」と「資料編」により数値で示されています。

気になるのは横田基地と立川飛行場の飛行機騒音です。WECPNLという計測方法で平均値が公表されています。このため戦闘機の夜間離発着訓練や市の中心部・立川飛行場ではヘリコプター、C1輸送機の離発着による突出した騒音が生じることがあります。市行政による注意深い監視が望まれます。

大震災による原発爆発の光景は、その質を問うことなく「需要あるところ供給あり」を経済成長の動力としてきた時代の終わりを示しているようです。

「環境ブック」を手許に、暮らしの質とは何かを足元から考え直す時ではないでしょうか。

立川市環境審議会会長 原 剛

環境ブックの作成にあたり、ご意見をいただいた、第7期立川市環境審議会の委員は下記のとおりです。

青木 玲子(副会長)、植松 棟器、大霜 俊夫、笠井 節子、後藤 正雄、駒井 隆治、
小松 清廣、柴 俊男、中村 恭之、早川 美穂、原 剛(会長)、溝渕 浩一〈五十音順〉

目 次

特 集

第1部	数字で見るたちかわの環境	2
1	たちかわの地域概況	3
2	立川市の環境への取り組み	8
3	環境指標から見るたちかわの環境	10
(1)	公害がなく快適に過ごせるまちづくり	10
1	河川等におけるBOD	11
2	横田基地における航空機騒音	12
3	一般公害の苦情件数	13
4	自動車等の交通量	14
(2)	環境への負荷の少ないまちづくり	16
5	自動車等の交通量	16
6	市内各駅周辺の自転車収容台数（民間駐車場を含む）	17
7	市内放置自転車台数	17
(3)	自然と共生したまちづくり	18
8	補助金による雨水浸透施設設置個数	18
9	湧水量（測定地点11か所計）	19
10	保護樹林地面積	20
11	保存樹木数	20
12	生物種数	20
(4)	自然や文化にふれるまちづくり	21
13	市民一人当たり都市公園等面積	21
14	耕地面積	21
(5)	地球環境の保全と循環を基調としたまちづくり	22
15	一人当たり廃棄物（ごみ）総排出量	23
16	一人当たり燃やせるごみ排出量	23
17	資源化率	24
18	一人当たり水道使用量	24
19	市全体から発生するCO ₂ 等排出量	25
20	太陽エネルギー利用機器設置費補助件数	25

(6) 市民・事業者・市総参加の環境づくり	26
21 環境プログラムの実施回数	26
22 こどもエコクラブ数	27
23 市民協働の環境学習講座数	27
(7) 事業者としての市の率先した取組	28
24 市の全庁からのCO2排出量	28
25 市施設における水道使用量	29
26 市本庁舎における廃棄物(ごみ)排出量	29
27 市所有の低公害車の割合	30
28 市所有自動車の燃料使用量	30
4 様々な測定結果から見るたちかわの環境	31
(1) 大気環境	31
(2) 水環境	39
(3) 公害苦情	45
第2部 市民・事業者の活動と市の取り組み	47
市民・事業者の活動	48
市民・事業者の環境配慮行動の分野別体系図	49
1 公害がなく快適にすごせるまちづくり	50
交通システム電機株式会社	50
2 自然と共生したまちづくり	51
残堀川・鳴く虫愛好会	51
玉川上水の自然保護を考える会	52
3 自然や文化にふれるまちづくり	53
立川市立第四小学校	53
立川市立若葉小学校	54
立川市立第五小学校	55
立川市立立川第六中学校	55
立川市立立川第七中学校	56
富士見町住宅ロードサポーター	57
ふじみ Cats ボランティアの会	58
立川ホテルの会(旧名:富士見町に蛍を呼び戻す会)	59
立川・手づくり公園の会	60
立川市高松学習館	61
NPO法人 自然文化誌研究会	62
日本たばこ産業株式会社 立川支店	63

4	地球環境の保全と循環を基調としたまちづくり	64
	立川市立立川第一中学校	64
	立川市立立川松中小学校	65
	立川市商店街振興組合連合会 女性部会	66
	立川商工会議所	67
5	市民・事業者・市総参加の環境づくり	68
	立川かんきょう市民の会	69
	なんでも遊び塾	71
	たちかわ水辺の楽校推進協議会	72
	東京ガス株式会社 多摩支店	73
	東京電力株式会社 立川支社	74
	NPO 法人 集住グリーンネットワーク	75
	たちかわエコパートナー	76
	環境フェア実行委員会	78
	市の取り組み	79
	環境講演会	79
	エコオフィスプラン 21	80
	立川市地域省エネルギービジョンの推進	82
	たちかわ環境賞	83
	消費生活関連事業の実施	86
	たちかわエコパートナー講座	88
	環境関連講座の実施	89
	環境関連講座（子どもグリーンクラブ）の実施	90
	喫煙対策事業	91
第3部	立川市地域省エネルギービジョン中間点検・評価	93
	立川市地域省エネルギービジョンについて	94
	立川市地域省エネルギービジョンの中間報告	97
	1 公共施設の省エネルギー化推進	98
	2 事業者の省エネルギー行動の推進	100
	3 学校からはじめる省エネルギー対策	101
	4 効率的な自動車利用の啓発	103
	5 省エネルギー推進のためのインセンティブのしくみの導入	104
	6 省エネルギー行動の連携強化	105

資料編	資 - 1
1 調査地点	資- 1
2 調査結果	資- 4
3 環境基準	資- 28
4 用語解説	資- 35

本文中で「*」がついた用語については、巻末の資料編で解説しています。